

【外皮性能】断熱材位置②の陸屋根と屋上バルコニーについて

文書管理番号:1231-01

# Q.質問

外皮性能計算の部材一括変更にある断熱材位置②の「陸屋根」・「屋上バルコニー」とは、どの部分を指 しているか。

H28年基準	×
外皮性能計算	断熱材位置②
■ 陸屋根・屋上バルコニーの断熱方法を選択してください	
屋根断熱	天井断熱
陸屋 0 mm   皮(病) 0 mm   火(前) (所施約)   外壁 (所施約)   外壁 (小壁)   高さ (新泉村下端20下前に新泉村)	▽ 新書 : 
屋根断熱	天井断熱
FI基準(栃上端のライン)から断熱材下端までの距離         の         mm              ア         サ高原材             ア         サ高原材             ア         サ高度             ア         サ高度             ア         サ高度             ア         サ高度             ア         サ高度             ア             ア         サ             ア         サ高度             ア             ア              ア              ア             ア         ア	▽ <b>新高</b> : 
地域区分     断熱材位置①     断熱材位置②     断熱       仕様の選択     断熱仕様②     店	基準高さ 真北方向
仕様登録	一括変更 キャンセル

\* 上図は「簡単モード」で動作した際の部材一括変更の画面です。



## A.回答

(部材一括変更)の「断熱材位置②」では、「陸屋根」・「屋上バルコニー」の部位を「屋根断熱」また は「天井断熱」のどちらで設定するかを選択します。



ここでは「令和3年4月1日以降の仕様」、「簡単モード」で説明しています。

### 【参考】計算方法の仕様について

外皮性能計算は、「令和3年4月1日以降の仕様」(令和3年4月1日施行の「改正建築物省エネ法」に準拠した計算方法)、「令和3年3月31日以前の仕様」(これまでの計算方法)の両方に対応 していますが、申請等には「令和3年4月1日以降の仕様」をご利用ください。

計算方法の仕様は「設定」メニューより変更でき、どちらの仕様で動作しているかは、画面上部の タイトルバーで確認できます。計算方法の仕様を変更すると、元の仕様で設定した外皮仕様や条件 を初期化し、計算内容がリセットされます。



【注意】外皮仕様設定ツールのユーザー定義について

外皮仕様設定ツールの内容は「令和3年4月1日以降の仕様」と「令和3年3月31日以前の仕様」 とで管理が異なります。「令和3年4月1日以降の仕様」で動作した際は、「令和3年3月31日 以前の仕様」で追加したユーザー定義の「材料」と「屋根、天井、外壁、床」の断熱仕様は、取り 込みを行うと内容を引き継いで使用できます。

なお「基礎」の断熱仕様および「開口仕様」については取り込みを行うことができません。「令和 3年4月1日以降の仕様」のユーザー定義で、新たに登録してご使用ください。

#### ● 断熱材位置②の「陸屋根」・「屋上バルコニー」について

断熱方法は「屋根断熱」または「天井断熱」のどちらかを選択します。

「屋根断熱」と「天井断熱」では、熱的境界の位置が異なるため、「外壁高さ」などが変わります。

屋根断熱:屋根断熱として設定します。

\* 「軒基準(桁上端のライン)から断熱材下端までの距離」については P.5 をご覧ください。

天井断熱:天井断熱として設定します。

\* 天井高さは (基準高さ)の天井高さオプションで「基準高さを用いる」「各部屋の設定値を用いる」のいずれか、選択した方の設定に基づきます。

128年基準	×
外皮性能計算	断熱材位置②
▶ 陸屋根・屋上バルコニーの断熱方法を選択してください	
屋根断熱	天井断熱
	♥計書
<b>屋</b> ド レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ レ	天井断熱 ▽軒書 新期初
地域区分     断熱材位置①     断熱材位置②       仕様の違択     断熱仕様①     断熱仕様②     庇	断熱材位置③ 基準高さ 真北方向
▲ ▶ 仕様登録	一括変更 キャンセル

\* ここでは、「屋根断熱」を選択しています。「天井断熱」はグレー表示になります。



● 軒基準(桁上端のライン)から断熱材下端までの距離

軒基準(桁上端のライン)から断熱材下端までの距離は、断熱材の下端が軒高より下側にある場合、 軒高から断熱材下端までの距離を入力します。



∗ 軒高は<sup>(1)</sup>(高さ設定)の<sup>(2)</sup>(階基準高さ)で設定している階基準(横架材天端)を基準とします。
∗ ここでは、屋上バルコニーを屋根断熱で設定しています。

【参考】外壁図の屋上バルコニー下部の外壁高さ

左下の矩計図のように、屋上バルコニー下部の屋根断熱下端が1 階軒高より 240mm 下にある場合、断熱材位置②の「軒基準(桁上端のライン)から断熱材下端までの距離」を 240mmに設定します。設定した数値が外壁図(右下)に反映され、バルコニー下の外壁の上端は軒高から 240mm 下がった位置となります。



< 屋上バルコニー下部 屋根断熱のイメージ図 >

\* ここでは、矩計図のとおり屋根断熱と床断熱に設定しています。外壁図の屋上バルコニー下部 の外壁高さは、下階 FL から屋根断熱材下端までです。



## 参考:屋上バルコニーを屋根断熱で設定した例

ここでは、屋上バルコニーを屋根断熱で設定した場合の部材設定一覧と各種図面について説明します。

#### • 部材設定一覧の屋根・天井タブ

部材設定一覧の「屋根/天井」では、「屋根形状」は「バルコニー」、「断熱設定」は「屋根断熱」に設定 されます。



\* バルコニーの面積は間取りから自動計算されます。「面積手動設定」で、プルダウンリストから 「自動計算」を「手動設定」に変更すると「計算式」や「面積」を任意に変更できます。

- \* 「基準から断熱材下端までの距離」は、「断熱材位置②」の「軒基準(桁上端のライン)から 断熱材下端までの距離」に入力した値になります。値は任意に変更できます。
- \* 「仕様」には、部材一括変更の「断熱仕様①」で設定した「屋上バルコニー」の断熱仕様が設 定されます。 \_\_\_\_\_

H28年基準				×
外皮性能	計算		断熱仕	上様①
<b>断熱仕様を選</b> ※選択項目にない仕様	ま択してください は、外皮仕様設定ツールより追加してください。	<b>基礎評</b> ( 一 使用する 地域別ZEH基準適合(	<b>西方法 9</b>	ト友仕様設定ツール
屋根/天井		地域仕様 すべて		~
勾配屋根	S02:天井 グラスウール16K 200mm ~	外皮基準 すべて		~
陸屋根	S01:屋根 グラスウール16K 200mm ~	断熱材種類すべて		~
屋上バルコニー	S01:屋根 グラスウール16K 200mm ~	※地域別ZEH基準適合仕様	<sup>策例は使用できません。</sup>	<u>注意事項</u> をご確認くだ
床		外壁		
一般部	S10:一般床 グラスウール16K 100mm ~	一般部 S04:外壁	グラスウール16K 100m	ım 🗸
オーバーハング床	S12:オーバーハング床 グラスウール16K 100mm 〜	基礎部(外気側) S08:基礎	無断熱	~
基礎		基礎部(床下側) S08:基礎	無断熱	~
基礎等	S06:土間床上端と地盤面の高さの差明わな ∨			
仕様の選択	地域区分     断熱材位置①       断熱仕様①     断熱仕様②	断熱材位置②	新熱材位置③	基準高さ
• •		仕様登録	一括変更	キャンセル

各図面では、屋上バルコニーの部位を「屋根」として算出します。

#### ● 部位別面積表(開口部等) 1階根拠図 及び 外皮(屋根/天井)面積表

外皮	(屋根/天井)	面積表

						HI IN IN						
<u>1−4</u>	階段	₩-0 <u>₩-0</u> HU洗面脱衣室	U.B 🔒	部位	階	部屋名	断熱仕様 No	計算式	外皮面積 <調整前> (m <sup>i</sup> )	開口 面積 (mi)	開口番号	外皮面積 <調整後> (m <sup>*</sup> )
	100	-	477.2	屋根	1	L·D·K	S01	3.640 × 0.910	3. 312			3. 312
	185	r	押入				·				小計	3. 312
L-D-K				天井	2	吹抜	S02	1.820×1.820	3. 312			3. 312
24		+ ## 10	<del>"</del> е		2	子供部屋	S02	3. 640 × 2. 730	9.937			9.937
*		八王110	* *		2	子供部屋	S02	3. 640 × 2. 730	9.937			9.937
7	玄関				2	書斎	S02	2. 275 × 2. 730	6.211			6.211
	D-1	W·	-9		2	書斎	S02	3. 640 × 3. 640	13.250			13.250
W=10	3				2	階段	S02	1.820×1.820	3. 312			3. 312
			_		2	クローセ゛ット	S02	1.820×0.910	1.656			1.656
1 階札	艮拠図	S=1/200			2	クローセ゛ット	S02	1.820×0.910	1.656			1.656
			-		2	クローセ゛ット	S02	1.365×1.820	2.484			2.484
1772	上部展	胡斯教			2	クローセ゛ット	S02	0.910×1.820	1.656			1.656
					2	クローセ゛ット	S02	0.910×1.820	1.656			1.656
ШШ	上部 大	计断熟			2	Hμ	S02	0.910×1.820	1.656			1.656
	4-11-11	)グ床			2	ホール	S02	1.820×2.730 + 2.275×0.910	7.039			7.039
											小計	63.762
											<b>슴</b> 計	67.074

#### ● UA 値 ηAC 値計算表 外皮平均熱貫流率(UA 値)

外皮平均熱貫流率(UA值)計算表										
部位	断熱仕様No 開口仕様No	面積 A(m²)	土間周長 し (m)	付属品	熱貫流率 U (W/m <sup>2</sup> K) 線熱貫流率 Ψ (W/mK)	温度差 係数 H	貫流熱損失 A×U×H L×Ψ×H (₩/K)			
屋根	S01	3.312	-	-	0.263	1.00	0.871			
天井	S02	63.762	—	-	0.214	1.00	13.645			
外壁一般部	S04	144.220	-	-	0.506	1.00	72.975			
外壁基礎部	S08	0.601	-	-	4.444	1.00	2.671			
外壁基礎部	S08	1.803	-	_	4.444	0.70	5.609			
窓	UW002	28.677	-	なし	1.900	1.00	54.486			
۴°7	SD099	3.102	-	なし	1.600	1.00	4.963			
床一般部	S10	63.762	-	-	0.455	0.70	20.308			
土間床	-	3.312	-	-	-	-	-			
基礎等(外気側)	S06	-	1.820	-	1.570	1.00	2.857			
基礎等(床下側)	S06	-	5.460	_	1.570	0.70	6.001			
【貫流熱損失合計:外皮熱損失量 q (₩/K)										
外皮等面積の合計 ZA(m²)										
外皮平均熱貫流率 UA=a/∑A (₩/m²K)										

#### \*が付いたものは数量補正

#### UA 値 ηAC 値計算表 窓以外の日射熱取得量(冷房期)

#### 窓以外の日射熱取得量(冷房期)

部位	方位	断熱仕様No 開口仕様No	方位係数 <i>ッ</i> C	面積 A(m²)	熱貫流率 U(W/m²K)	日射熱 取得率 η=U×0.034	日射熱 取得量 νC×A×η
屋根	上面	S01	1.000	3.312	0.263	0.009	0.030
天井	上面	S02	1.000	63.762	0.214	0.007	0.446
外壁一般部	北	S04	0.335	47.009	0.506	0.017	0.268
外壁一般部	東	S04	0.468	29.226	0.506	0.017	0.233
外壁一般部	南	S04	0.476	35.661	0.506	0.017	0.289
外壁一般部	西	S04	0.553	32.324	0.506	0.017	0.304
外壁基礎部	南	S08	0.476	0.601	4.444	0.151	0.043
۲° ۳	南	SD099	0.476	3.102	1.600	0.054	0.080
床一般部	下面	S10	0.000	63.762	0.455	0.015	0.000
窓以外の日射熱取得	量合計	(W/(W/m²))	0				1.693

\*が付いたものは数量補正